

第2回関東学連臨時総会議事録

日時： 2016年09月12日、9月13日

場所： ホテルファミテック

文責： 上野康平（東京工業）

出席： 千葉 東京 筑波 東京工業 茨城 東京農工 横浜国立 慶応義塾 十文字
横浜市立 相模女子 津田塾 実践女子 日本女子 早稲田 フェリス女学院
一橋 東京理科 小泉知貴

委任： 関東学院

議長： 澤村（東京理科）

全会一致で議長承認

議題目次

- 1, スプリントセレ推薦について
- 2, 推薦規約について
- 3, 2レーン制について
- 4, 関東学連団体戦について
- 5, 次回総会の日程と議長決定

1, スプリントセレ推薦について

小泉：現幹事長の瀬川が12日に行われた臨時総会に不備があると判断し、第16条『幹事長が必要と認めた場合、総会を招集できる』によってこれから臨時総会を開催し、議題1について再度議論し直す。なお、12日の総会の不備とは、スプリントセレ第6条『推薦立候補者の通貨の可否を決める総会に出席できない加盟校連盟員は、第5条3項に定める基準を満たす限り、理由を添えれば、委任状による意思表示を可能とする。ただし、委任状に添えられた理由が、第4条2項に定める、総会当日の推薦立候補者による答弁によって覆された場合は、その委任状による意思表示は無効票として扱う。』を見落とし、関東学院による票を無視したことである。

東京：柴沼選手の通過に賛成。トレキャンに行くのはセレ免除の妥当な理由だと考え、次回以降も考慮していくべきだ。立川選手の通過に反対。同コースの猪俣選手よりタイムが遅かったため、同コースでタイムの速い選手を差し置いて通過することはない。

茨城：全く正反対の意見がでた。意見①両選手とも推薦基準を完全に満たしていないと考え、両選手とも通過に反対する。意見②海外遠征の正当性などを加味して新しい規約を作るべきであり、今回の柴沼選手の通過は賛成。

横浜国立：立川選手の通過に賛成。推薦規約には満たしていないものの、今回のレースのタイム差は、レーンの振り分けに不備があったと考えるから。

慶応義塾：両選手とも通過に反対。推薦基準を満たしておらず、特例を作ってしまうと今後同じような事例で認めなくてはならなくなるから。

横浜市立：両選手とも通過に反対。前例を作ってしまうと、今後同じような理由を述べてセレを通過しようとする選手が現れてしまうから。

東京農工：両選手とも通過に反対。柴沼選手について、海外遠征はセレとは独立したイベントであり、推薦基準を満たしていない。立川選手について、セレ参加時点でコース分けに同意しているから。

早稲田：柴沼選手の通過に賛成。推薦基準に準じている。立川選手の通過に反対。推薦に準じていない。

東京工業：柴沼選手の通過に賛成。推薦基準を満たしていないという判断だが、特例として扱う。立川はほかの選手を差し置いて通過はあり得ない。

千葉：柴沼選手の通過に賛成。セレに行けなかったという理由だけでは弱いですが、去年の成績を見れば十分枠が取れる選手だと判断した。立川選手の通過に反対。2レーン制の性質上、差が生まれるのは仕方がない。

東京理科：柴沼選手の通過に賛成。枠を取れる可能性が高い選手だから。立川選手の通過に反対。タイムを上回った選手がいるから。

関東学院：柴沼選手の通過に反対。幹事長がまとめた資料にあるように、わざと海外に行くという事例を作ってしまう可能性があるから。そもそも、海外遠征やセレの日程がわかっていたはずだ。

筑波：レーン差はたまたま生じるものだからしかたない。柴沼選手は、推薦はセレが終わってから提出する形式だが、セレの前に提出していれば正当な理由として受けることもできたのではないかな。そうすると規約の問題になるのではないだろうか。また、柴沼選手の推薦が通った場合、柴沼選手・大田選手・猪俣選手の三選手で抽選をすべきではないか。

小泉：以上で柴沼選手の通過について投票を行うと、賛成5票・反対5票・棄権2票となる。委任状による票を入れると賛成5票・反対6票・棄権2票となり、柴沼選手の通過は反対となる。しかしスプリントセレ第6条によって、柴沼選手が関東学院の意見を覆すことができる。この票は無効とすることができる。

柴沼：前例となっていて、今後セレ回避のために海外遠征に行く選手が現れるという懸念だが、今回のトレキャン期間はちょうどそこしか行けないという状況だったのであり、わざとセレとかぶせたわけではない。今回はセレの日にはしかトレキャンにいけなかったのだから、正当性を持つと考える。また、今回の日程は異例であり今後のこのようなことは無いと思う。早めの帰国についてだが、8日～14日がトレキャン期間で、セレに間に合うためには12日には出国しなければならない。そうすると8日～11日しかトレーニングができないことになる。このような短さでは遠征として成り立たないと思う。

小泉：この意見に対して反論は？

東京工業：JWOC以外にトレキャンはないのか。

柴沼：JWOCに相当するものはWOCしかない。

東京工業：それなりのレベルの選手しか参加できないということでもいいのか？

柴沼：そうなる。

東京工業：日程が足りないというのはわかるが、具体的にこの日は何をしたいかが知りたい。

柴沼：初日は北欧のトレインに慣れるため、2つのトレインに2時間ずつ入る。2日目も同じトレインに入り、同じコースを走る。この2日間はオリエンテーリングをやるというより、北米のトレインに慣れるという目的が大きい。3日目は主にスプリントの練習。4日目でやっとまともなオリエンテーリングのトレーニングが出来る。ここからが本番のトレーニングと思っているのでさらに2、3日は必要である。

小泉：関東学院と同じような理由で反対している大学は、この意見を聞いてなにかあるか。

横浜市立：JWOC トレキャンとセレは目的が違う。重要性はもちろんわかるが、目的が違う以上推薦の理由にならないのでは。

柴沼：それは考えたが、セレは強い選手を選ぶためにやっているのだ。確かに JWOC トレキャンは来年度のインカレのためだけのトレーニングではないが、オリエンテーリングの上達的手段としてかなり密なもの、貴重なものだと考える。そのような場をつかって強くなろうとしている選手のチャンスを奪ってしまうというのは、そもそもの強い選手を送り込もうとしているセレの目的にふさわしくないのでは。

横浜市立：セレは一回性であり、ミスをしてしまえば強い選手であっても落ちてしまう。このリスクを免除して通過するというのは、セレに出ている選手と平等ではない。

柴沼：それは一理あると思う。しかし、一回性のリスクを負わずに通るというという前例は、今回の特別性を考慮すればおこらないはずだ。考えられるのは JWOC、WOC トレキャンの2つであるが、このレベルのトレキャンが被るというのはなかなかないのでは。

慶應義塾：国内だけでなく世界を見据えるという考えはわかるが、JWOC に出られるとは決まっていないのでは。

柴沼：ほぼ僕の内定は決まっている。JOA も1回だけの出場では結果が残せないと考えている。もちろん選考会までわからないが、事実的に内定だと僕は判断している。

小泉：すべての意見が正当に返されているように感じるがいかがだろうか。関東学院の意見を覆せると判断できるが、議長どうだろう。

議長：言っていることは妥当であり、関東学院の意見を覆すことが出来る。

小泉：よって、関東学院の反対意見は無効とする

関東学院の票が無効となり、再度決を採る。

柴沼選手の通過について：

賛成 7 票（早稲田 東京 茨城 東京工業 千葉 東京理科 一橋）

反対 4 票（東京農工 慶應義塾 横浜国立 横浜市立）

棄権 1 票（筑波）

賛成多数で柴沼選手の推薦承認

立川選手の通過について：

賛成 1 票（横浜国立）

反対 10 票（早稲田 東京 茨城 東京工業 千葉 東京理科 東京農工 慶應義塾
一橋 横浜市立）

棄権 1 票（筑波）

反対多数で立川選手の推薦否認

2, 推薦規約について

相模女子：抽選もいいが、過去の結果も考慮

横浜国立：柔軟な決定ができるように話し合いにすべき。

筑波：抽選にすべき。投票にすると集団票が懸念され、公平性に疑問が生まれる。また前年度の成績を考慮する方法だと、1年間で伸びてきた選手が切られてしまう。

東京：前提として推薦状を書かせるべきだ。トップ3人比やタイム平均比などで配分すべき。他にはコース差をぎりぎり減らすことでタイムだけで決める事もできる。また、抽選でいいという意見も多い。

茨城：投票にすべき。集団票については、推薦該当クラブ投票権なしなどとすればいいのでは。

東京農工：推薦にすべき。所属クラブで抽選の差が出てしまう。

一橋：抽選。投票では組織票、恣意的な表が多くなってしまう。

日本女子：抽選なら公平である。

実践女子：過去の実績を考慮できるといい。

早稲田：抽選。実績を考えるとというのは完全な公平性が生まれないと思う。

十文字：抽選。抽選のほうが平等。投票だと偏ってしまう。

慶應義塾：抽選にすべき。

東京工業：抽選。そもそも各レーンの均等配分はできないと考え、完全にランダムに分けるようにすべきなのでは。

フェリス：抽選。平等の結果が出るから。

東京理科：抽選。

以上の意見を持ち帰り一度話し合いをして、次回総会で承認を取るという流れになる。

3, 2 レーン制について

早大 OC から M21A クラスにおけるレーン差が指摘された。セレクションを地域クラブへ委託した場合、レーン差を減らすためにどのようなレーン分けを行うべきなのか。

筑波 : 前年度のインカレスプリントの結果を並べて、2 個ずつ切ってわけ。

横浜国立 : 直近の OB、実行委員がわけ。もしくは完全にランダム。

東京 : わかる限りでこちらから提出する。独自のランダムわけができるエクセルファイルを送ることで、ワンクリックで振り分けができる。

十文字 : 学連のほうでわけてもいいが、我々は基準を決めるだけでそれを委託すればいい。

慶應義塾 : 前年度のインカレスプリントを参考にする。学連から監査委員をえらび、公平化を判断してもらう。予選決勝方式で 1 レーンで決定する。

相模女子 : 地域クラブの方は各選手の実力がわからないので、許可が得られたら学連側できめてしまう。

東京農工 : 外部に委託して完全にランダムにするのが一番公平なのでは。

茨城 : 前年度のインカレスプリントを参考にして学連が振り分ける。地域クラブに委託する場合は完全に規則に則ったものは無理なのだから、学連側で精巧なマニュアルを作るべき。

実践女子 : 前年度のインカレスプリントを参考にする。

日本女子 : 前年度のインカレスプリントの結果を学連が提出する。

東京工業 : 完全に公平性を保ちたいのなら、OB にクラス分けを頼む。もしくは完全にランダムでよいとしてしまう。

東京理科 : 公平性も重要だが、枠を取れる選手が通過できることが最優先であるからランダムはよくないのでは。幾つかの参考レースを学連幹事が提出する。

以上の意見を持ち帰り一度話し合いをして、次回総会で承認を取るという流れになる。

4, 関東学連団体戦について

山リハに運営委託をする予定。

運営委託について：全会一致で承認

5, 次回総会の日程と議長決定

10月29日 議長：奥尾（茨城） 東京工業大学大岡山キャンパス